

1. 効果検証の背景

1 国におけるスマートシティの普及促進

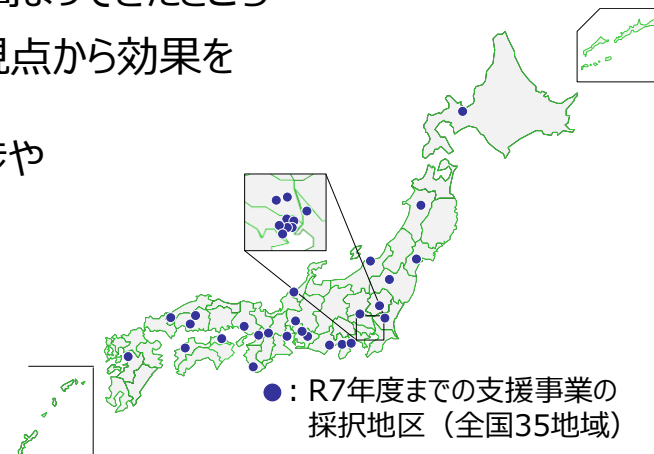
- 国では、都市が抱える諸課題をデジタル技術で解決する「スマートシティ」の普及促進を推進
- スマートシティ実装化支援事業（以下、支援事業）、スマートシティ官民連携プラットフォームなど様々な取組によりスマートシティを推進

令和元年度	スマートシティモデル事業開始、 スマートシティ官民連携プラットフォーム発足
令和4年度	スマートシティ実装化支援事業開始
令和5年度	都市サービス実装タイプ拡充
令和7年度	戦略的スマートシティ実装タイプ拡充

2. 効果検証の方法

2 効果検証の背景

- 国内各地域のスマートシティ施策の進捗に伴い、実証・実装事業の効果がどのように創出されているか把握することの重要性が高まってきたところ
- 国が客観的な視点から効果を把握したうえで、現時点での進捗や課題を評価



効果の検証

都市のビジョンの実現に向けて、スマートサービスの効果が発現しているか検証

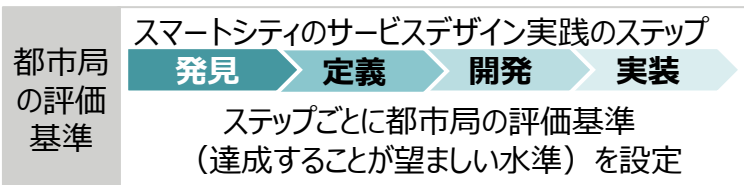
都市局 → データ収集、意見交換等による**効果の検証** → コンソーシアム

A地域の効果

- | | |
|----|---|
| 定量 | <ul style="list-style-type: none"> ✓ 利用者数、利用満足度 ✓ 導入・運用の費用・収入 ✓ エリア滞在時間の増加 等 |
| 定性 | <ul style="list-style-type: none"> ✓ 数値に表れない効果 ✓ 課題や工夫 等 |

都市局としての評価

都市局の評価基準を設けて、成功している点や課題点を地域ごとに評価



A地域の効果

都市局としての評価

A地域の評価結果

B地域の効果

B地域の評価結果

⋮

⋮

活用

評価結果を整理し、今後の展開に活用

各地域の評価結果
(A地域、B地域、…)

活用

- ✓ 評価の高い地域に共通している点や課題・対応策の抽出・展開
- ✓ 支援事業の支援方法・公募採点基準等の見直し

3. 効果検証結果の概要

- 効果検証結果からみえたポイントを、スマートシティリファレンスアーキテクチャ ホワイトペーパーのサービスデザイン実践のステップを活用し、整理

発見(Discover)

定義(Define)

開発(Develop)

実装(Deliver)

ステップ	発見(Discover)	定義(Define)	開発(Develop)	実装(Deliver)
	利用者像・ニーズの明確な設定、都市課題の網羅的な洗い出し	関係者の意見等を反映した解決すべき都市課題の特定	先進性・発展性のあるスマートサービスの開発、運用体制の構築	持続可能な形での取組の継続、取組の見直し

評価の高い取組に共通してみられる点

上位関連計画を踏まえ、ニーズを具体的に想定し、都市課題を洗い出している

重要度・緊急度の高い都市課題を解決すべき課題として設定している

リーダーシップを発揮し強かに事業を牽引する推進主体がいる

継続的に効果検証を実施しつつ、取組を見直している

課題

都市課題を特定した後、再び都市課題を洗い出して見直すことが少ない

都市課題の解決ではなく、技術を起点としてスマートサービスが検討されている

サービスに必要なデータの調達コストが高い

他主体の取組動向に大きく影響を受ける

資金面の持続可能性(資金的持続性)が弱い

課題の解決事例

都市計画の洗い出しを、総合計画の改定(B地域)や、毎年度の事業報告に合わせて実施(C地域)

都市課題の把握に、オンライン市民参画等の機会を活用したり(A地域)、官民協議を丁寧に実施(E地域)

取得したデータの複数の事業での活用や地元事業者への提供により収入確保に繋げる(B地域)
 首長の意思決定により複数部署が横連携した強力な推進体制を構築(E地域)

開発したサービスの複数自治体での共同利用(A地域)
 参画事業者との適切な費用負担割合の合意(D地域)

4. 結果のまとめと今後の取組

- 体制・ビジネスモデルの持続可能性と、効果検証に基づく取組の見直しについて課題を確認
- 実施主体と月1回程度の意見交換を行うことで進捗の把握と伴走支援を行い、持続可能なビジネスモデルの構築への助言や、適切な効果検証と取組方針の見直し支援を強化

